

サライ

遠い夢　すてきれずに　故郷^{ふるさと}をすてた
穏やかな　春の陽射しが　ゆれる　小さな駅舎^{えきさ}
別離^{わか}より　悲しみより　憧憬^{けいけい}はつよく
淋しさと　背中あわせの　ひとりきりの　旅立ち

動き始めた　汽車の窓辺を
流れてゆく　景色だけを　じつと見ていた
サクラ吹雪の　サライの空は
哀しい程　青く澄んで　胸が震えた

恋をして　恋に破れ　眠れずに過ごす
アパートの　窓ガラス越し　見た　夜空の星
この街で　夢追うなら　もう少し強く
ならなけりや　時の流れに　負けてしまいそうで

動き始めた　朝の街角
人の群れに　埋もれながら　空を見上げた
サクラ吹雪の　サライの空へ
流れてゆく　白い雲に　胸が震えた

離れれば　離れる程　なおさらつめる
この想い　忘れられずに　ひらく　古いアルバム
若い日の　父と母に　包まれて過ぎた
やわらかな　日々の暮らしを　なぞりながら生きる

まぶたとじれば　浮かぶ景色が
迷いながら　いつか帰る　愛の故郷^{ふるさと}
サクラ吹雪の　サライの空へ
いつか帰る　その時まで　夢はすてない

まぶたとじれば　浮かぶ景色が
迷いながら　いつか帰る　愛の故郷^{ふるさと}
サクラ吹雪の　サライの空へ
いつか帰る　いつか帰る　きつと帰るから

郵便はがき



7 7 9 - 0 1

徳島県板野郡板野町大寺

字郡頭十一

板野中学校内

土の成 正士先生

お手紙ありがとうございます。

サウイ、お涙の人の愛をいえるようにと

改めく笑顔をいれた。当日はリハーサル

行かせた。成功を祈る。

夢はあふくす。いふまでもない。

頭張、うーん。

十一月十九日

山崎 正